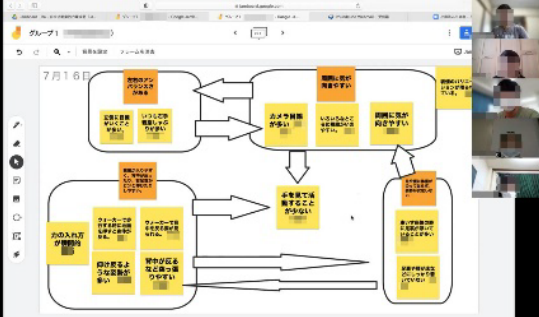


(1)遠隔でのやりとりを含めた 児童生徒の実態把握の在り方について

【附属桐が丘特別支援学校】

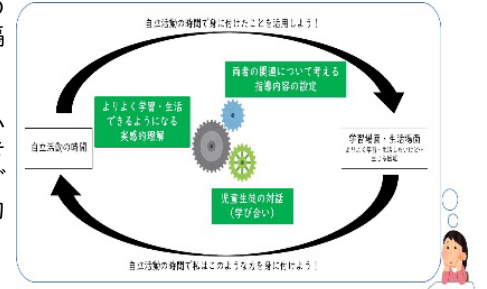
〈目的〉実践的指導力向上を図れるオンライン研修【自立活動実践力錬成塾】の在り方を検証する。
 〈内容〉実態把握・指導すべき課題/個別の指導計画作成/実践の経過・指導改善/評価のオンライン演習を考案し、実施・検討した。
 〈結果〉受講者から各演習に対して「とても満足・とても参考になった」「満足・参考になった」という肯定的な回答で占められていた。全演習終了後には、ケース児に対する自立活動の指導への自己効力感が向上していた。各演習を通じて、どのような視点で自立活動の指導における実態把握から評価までの一連の流れを行えばよいか、ケース児を通じて具体的に学べるよさがあった。



(2)遠隔による指導を含めた 自立活動の指導と評価について

【附属桐が丘特別支援学校】

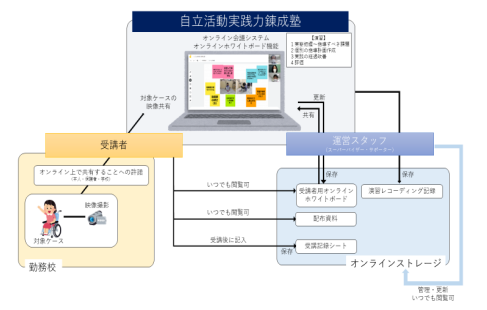
〈目的〉「自立活動の学習が現在や将来にどのように生きていくのか」という思考を促す遠隔合同授業の在り方を検証する。
 〈内容〉肢体不自由特別支援学校の準ずる教育課程に在籍する児童生徒を対象とし、自立活動で各自が実践している取組の目的や内容等をオンライン上で発表し、意見交換を行った。
 〈結果〉自立活動の学習が現在や将来にどのように生きていくのかという思考形成を図るためには、よりよく学習・生活できるようになる実感的理解とともに、その両者の関連を自分なりに考え、遠隔合同授業での対話を通じて、その考えを広げたり深めたりすることが重要であった。小学部低学年は、こうした思考につなげるための準備段階であり、自己や周囲に意識を向ける力を体験的に育む際に、遠隔合同授業を効果的に活用することが考えられた。



(3)遠隔でのやりとりを含めた 外部との連携の在り方について

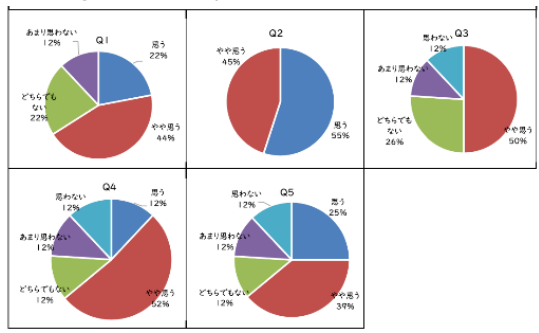
【附属桐が丘特別支援学校】

〈目的〉実践的指導力向上を図れるオンライン研修【自立活動実践力錬成塾】の在り方を検証する。
 〈内容〉情報共有や話し合いが遠隔でも円滑に行えるよう、オンライン会議システムやオンラインホワイトボード機能等の活用方法を検討し、実施・検証した。
 〈結果〉オンラインを活用した連携時の留意事項を昨年度から更に整理できた。使用したアプリケーションや各種設定は、専門的な知識を有さずとも運用しやすく、汎用性が高いと言える。移動にかかる費用と時間の負がなく、インターネット環境があればどこからでも参加できる利点を生かし、遠隔で他校教員や外部の専門家と連携する方法として機能することが示唆された。



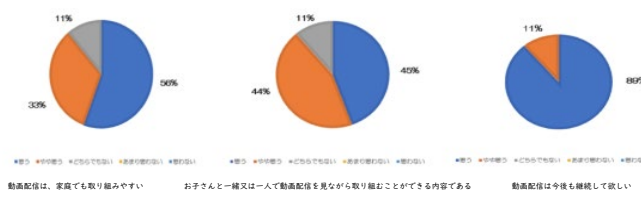
【附属大塚特別支援学校】

〈目的〉対面とオンライン面談の活用の示唆を得るために、担任にアンケート調査を実施する。
 〈内容〉質問項目は、各学部のオンライン面談における実施状況について/Q1:効率性について/Q2:安全性について/Q3:情報の伝えやすさ、伝わりやすさについて/Q4:やりとりについて/Q5:機会があれば、今後もオンライン面談を活用したいと思うであった。
 〈結果〉Q2のように、安全性については肯定的な結果となった。一方、Q3~Q5について、あまり思わない-思わないが1/4を占める結果となっており、各家庭の状況等に応じて進め方に配慮する必要性が示唆された。



【附属大塚特別支援学校】

〈目的〉オンライン配信においてどのような教育的効果が得られたのかアンケート調査を実施し実態を把握する。
 〈内容〉運動やストレッチに関連した動画を校内限定配信した。質問項目は、①動画配信は、家庭でも取り組みやすい/②お子さんと一緒又は一人で動画配信を見ながら取り組むことができる内容である/③動画配信は今後も継続して欲しい、であった。
 〈結果〉回収率は、52%であった。3つの質問内容の結果は、以下に示した図である。自由記述では、手や体を動かすものは動画を見ながら意欲的に取り組むことができた。画面に注目し、運動しようとする様子がある、という高評価な意見が挙げられた。



【附属大塚特別支援学校】

〈目的〉令和4年度より、本校教員が桐が丘特別支援学校主催のオンラインを活用した自立活動演習～自立活動実践力錬成塾に参加し、自立活動に対してどのように考えられるようになったのかアンケート調査を実施する。
 〈内容〉質問は、自立活動錬成塾に参加し、どのような知見が得られたのか、今後どのように活用していくのか、参加した感想等であった。
 〈結果〉自立活動錬成塾が終了した後、参加した教員に自由記述によるアンケートを実施した。アンケート結果では、自立活動錬成塾に参加することができ、それぞれの立場の方から助言を頂くことができ良かったと高評価が得られた。

・実態把握から指導目標の設定に至るまでの過程について再確認することができて良かった。
・錬成塾に参加して、皆さんと共有しながら指導目標であったり、指導方法を教えてくれたりして、良かった。
・公立学校の先生が「自立活動の目標や手だてについて、悩まれている方が多くいると感じた。その悩みが改善できるように、私たち自身も自己研鑽する必要があると感じた。
・附属大塚以外の先生達と話し合う機会がこれまでなかったため、児童生徒を見る視点や新たな指導方法を教わり、勉強になりました。

教職員による自由記述アンケートの結果